

讓步的共同行為

三木那由他(大阪大学大学院)

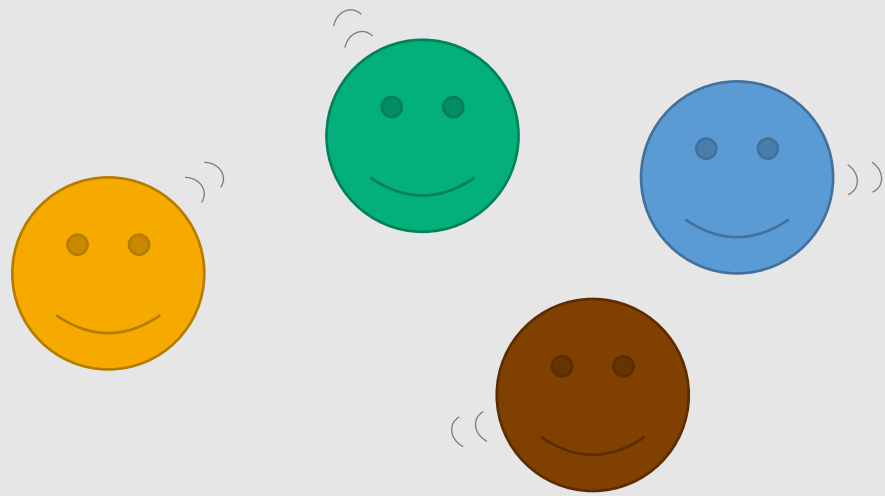
nyt.miki@gmail.com

nayuta.miki@let.osaka-u.ac.jp

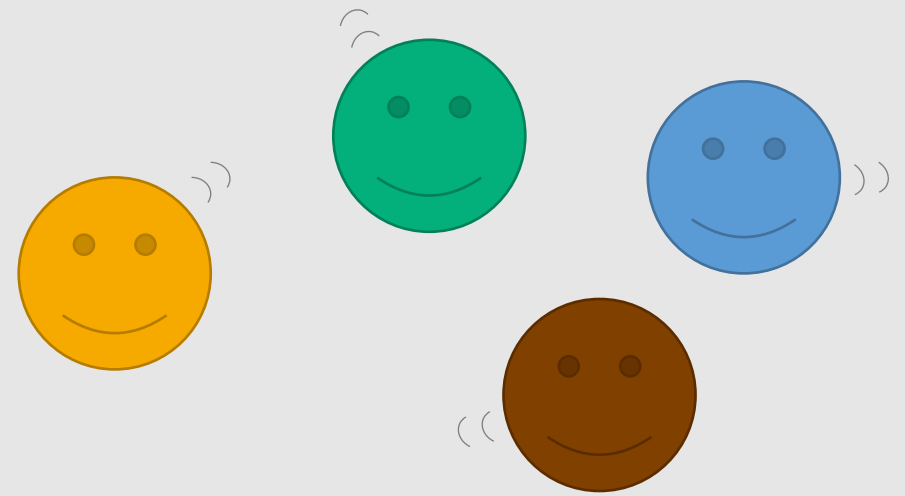
この発表の目標

- 共同行為論においてこれまで注目されてこなかった譲歩的共同行為という現象を紹介する
- それによって共同行為論にどのような影響が生じるかを論じる
- 譲歩的共同行為の研究が持ちうる意義を述べる

共同行為論のこれまで



何人かのひとがそれぞれで動いている



何人かのひとと一緒に何か(ダンスなど)をしている

共同行為(joint action)

別々の行為の単なる集まりに何を足したら共同行為になるのか

「一緒にXする」という目的をまず共有し、それを達成することで共同行為Xがなされる
＝「対応条件」と呼びたい

Bratman(1993, 2014)

われわれでXしようという意図の共有

Searle(1990, 2010)

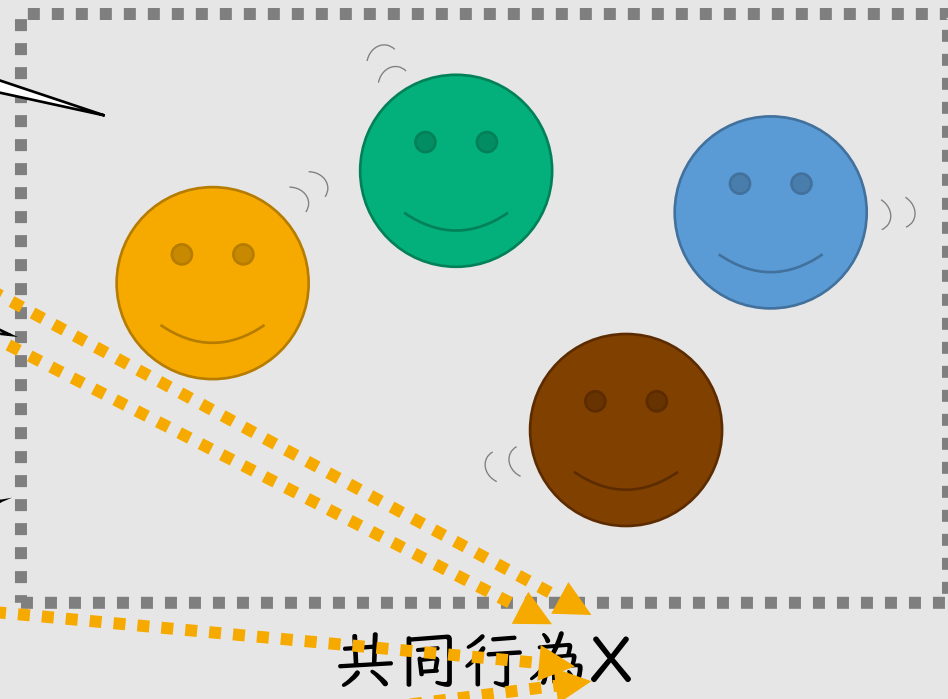
まさにこの意図によってしかじかの個人的行為がもたらされ、それが手段となってXがなされるようにしようという意図の共有

Gilbert(1996, 2014)

一体となってXしようという共同のコミットメントに参加する準備の表明が共通知識になる

Tuomela(1996, 2014)

われわれで一緒にXしようというweモードの意図の共有



近年、「ぎりぎり共同行為と言えそう」という例を検討することで、従来の論者よりも共同行為の必要条件を切り詰めていこうという一群の研究＝ミニマリズムがある
(Butterfill 2012, Blomberg 2016, Schönherr 2019, Ludwig 2020など)

そのなかで、「共有されているのは意図でなく目的でよい」とか、「共有されていさえすればよく、共有されていることが共通知識になる必要はない」とかと論じられている

……が、対応条件は特に疑問視されず、前提とされ続けている

讓步的共同行為

譲歩的共同行為とは

- 対応条件が成立しない共同行為の事例
- すなわち、その共同行為の参加者が当初共有していた目的と、実際になされる共同行為がずれる事例であり、共同行為がその遂行中にアイデンティティを変化させうるということを示す

例：しぶしぶ買い物をする

Aは「公園に散歩に行こう」と言い、Bはそれを受け入れる。その途中でアクセサリー店を見つけ、AはBの許しを得ることなくそこに入って行く。Bは「公園に行くんじゃないの？」と言うが、Aは「行くよ。でもちょっとだけ。イヤリングを買いたい」と返す。Bは譲歩する。5分後になってBは「もう行こうよ」と言う。Aは同意する。公園に着く前に、またAは立ち止まりパン屋さんに行く。Bは「公園!」と叫ぶ。けれどAは「行くけど。でもパンが切れてたでしょ」と返す。Bはまた譲歩する。パンを買ったあと、ふたりは改めて公園に向かうが、今度はBが立ち止まり、「きみは買いたいものを買ったんだから、私だって買っていいでしょ?」と言い出す。Aは「私の買い物が済んだら公園に行くんだってでしょ」と反論するが、すぐに譲歩する。そんなこんなで数時間が立ち、ふたりはいまだに公園には到着せず、ふたりの両手は買い物袋でいっぱいだ。Aは「公園に行くつもりだったけどさ、……またの機会にしない?」と言い、Aは「きょうは買い物の日だったということにしよう」と応じる。

公園に散歩に行こう!

行こう、行こう!

待って!

待ってって!

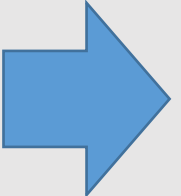
私だって買
い物したい

イヤリング買いたい

パン買いたい

待って!

一緒に買い物をした



この例では、

- 共有している目的は「一緒に公園で散歩をする」
- 最終的におこなった共同行為は「一緒に買い物をする」
- 対応条件が崩れる例となっている

これ、そもそも共同行為なの？

もとの目的からの逸脱が起こるたびに、それを本来のルートに引き戻そうという力が働き、
それをもとに互いに行為を調整している
これは共同行為の特徴であり、共同行為の一種と見なしたほうが理に適っていそう

公園に散歩に行こう!

行こう、行こう!

待って!

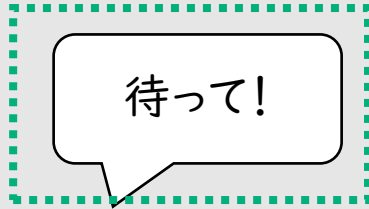
待ってって!

待って!

イヤリング買いたい

パン買いたい

一緒に買い物をした



「一緒に公園へ散歩に行く」という
共同行為が失敗し、「一緒に買い物
する」というふたつ目の共同行為が
起きているだけでは？

一緒に公園に散歩に行く

公園に散歩に行こう!

行こう、行こう!

イヤリングを買い終わったら一緒に公園に散歩に行く

待って!

パンを買い終わったら一緒に公園に散歩に行く

待ってって!

Bの買い物が終わったら一緒に公園に散歩に行く

待って!

最後に「もうきょうは買い物だけにしよう」と同意するまでは、ずっと同じようなことを繰り返していたとすると、最後の同意の瞬間にひとつめの共同行為が失敗し、その瞬間にふたつ目の共同行為が開始され、開始されると同時に完了したことになりそう（その時点まで、ふたりは「一緒に買い物をする」という目的を共有するような場面がなかった）
むしろ、目的の修正に合わせて、ちょっとずつ遂行中の共同行為自体が変化していったと考えるほうがもっともらしい

重要なポイント

- 共同行為の開始時点では、共同行為の参加者たちは自分たちが当初の目的をつつがなく遂行するか、もしくはいま見たような逸脱と譲歩の末に別の何かを遂行することになるか、はっきりとは知らない
- 共同行為の条件を、それが開始される時点で成り立っていること（意図など）によって特定する方針を取る以上は、標準的共同行為と譲歩的共同行為を切り分けることはできない
- 分析手法の根本的な変更をするのでないならば、共同行為は譲歩的になり得ると認められたほうが負担が少ない

譲歩的共同行為の存在から何が言えるのか

理論的なポイント

- 「結果的に遂行される共同行為が、共同行為開始時点で共有されている目的においてすでに特定されていないとしない」という条件は、共同行為の必要条件から除外できる
- 共同行為の変化の仕組み、および変化を超えて通底するものを考察する必要がある

応用的なポイント

- 共有された目的とずれた共同行為を結果的に達成するというのは、集団での行為が個々人の行為の単なる集積を超えた創造性を持つという考えにひとつのかたちを与える
- 他方で、当初の目的に賛同して共同行為に加わったはずなのに、譲歩せざるを得なくなり結果的に望まぬ共同行為に加わるひとの例というものを、共同行為論の枠内で語る可能性も開かれる

文献

- Blomberg, Olle (2016) “Common Knowledge and Reductionism about Shared Agency,” *Australasian Journal of Philosophy*, 94(2): 315–326.
- Bratman, Michael E. (1993) “Shared Intention,” *Ethics*, 104: 97–113. Reprinted in Bratman (1999): 109–129.
- Bratman, Michael E. (1999) *Faces of Intention: Selected Essays on Intention and Agency*, Cambridge University Press, Cambridge.
- Bratman, Michael E. (2014) *Shared Agency: A Planning Theory of Acting Together*, Oxford University Press, Oxford.
- Butterfill, Stephen (2012) “Joint Action and Development,” *The Philosophical Quarterly*, 63(246):
- Gilbert, Margaret (1996) *Living Together: Rationality, Sociality, and Obligation*, Rowman & Littlefield Publishers, Inc., Lanham.
- Gilbert, Margaret. (2014) *Joint Commitment: How We Make the Social World*, Oxford University Press, Oxford.
- Ludwig, Kirk (2020) “What Is Minimally Cooperative Behavior?,” in Anika Fiebich ed., *Minimal Cooperation and Shared Agency*, Springer, Cham: 9–40.
- Patternotte, Cédric (2020) “Joint Action: Why So Minimal?,” in Anika Fiebich ed., *Minimal Cooperation and Shared Agency*, Springer, Cham: 41–58.
- Schönherr, Julius (2019) “Lucky Joint Action,” *Philosophical Psychology*, 32(1): 123–142.
- Searle, John R. (1990) “Collective Intentions and Actions,” in Philip R. Cohen, Jerry Morgan, & Martha E. Pollack eds., *Intentions in Communication*, The MIT Press, Cambridge: 401–416.
- Searle, John R. (2010) *Making the Social World: The Structure of Human Civilization*, Oxford University Press, Oxford.
- Tuomela, Raimo (2005) “We-Intention Revisited,” *Philosophical Studies*, 125: 327–369.
- Tuomela, Raimo. (2013) *Social Ontology: Collective Intentionality and Group Agents*, Oxford University Press, Oxford.